
カエル！ジャパン通信 Vol.195 令和4年9月13日

発行：内閣府 仕事と生活の調和推進室

<<<今号の目次>>>

1. コラム ワークেশョン、取組の現状と可能性

2. 最新情報

《お知らせ》 2件

《地方公共団体等の動き》 11件

■□■ 1. コラム ■□■

ワークেশョン、取組の現状と可能性

田中 敦 さん

山梨大学生命環境学部地域社会システム学科教授。国土交通省観光庁「新たな旅のスタイルに関する検討委員会」委員。日本国際観光学会ワークেশョン研究部会長。

コロナ禍以降、テレワークを導入する企業が増えつつあるものの、ワークেশョン（テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごすこと）については必ずしも浸透しているとはいえないようです。日本におけるワークেশョンの課題とメリット、ワークেশョンを導入する際のポイントについて田中さんにお話を伺いました。

◆多様化する日本型ワークেশョン

欧米では、休暇中にリゾート地等で過ごす際に少しか仕事をするをワークেশョンと呼んでいます。ところが、日本では欧米とは全く異なる形で、ワークেশョンという言葉が定着しつつあります。観光庁はワークেশョンを4つの型に分類しており、欧米同様のスタイルを「福利厚生型(休暇型)」、会社以外の場所で社内研修などを行うことを「合宿型」、地方のシェアオフィスなどで勤務することを「サテライトオフィス型」、地域社会の課題解決に取り組むことを「地域課題解決型」としています。さらに、ワークেশョンには、1:実際にワークেশョンを行う社員、2:社員が所属する企業・組織、3:ワークেশョン利用者を受け入れる地域・自治体、4:ワークেশョンに関連した事業者の4つの異なるステークホルダーが存在し、例えば地方自治体は関係人口の増加が推進の目的となるなど四者四様でさらに多様な類型ができてしまったことで、当初は新たな観光需要の創出と平準化が目的で

あったはずなのに、一体何がワーケーションなのかわかりづらい状況になっています。

◆ワーケーション導入のポイントは企業側の意識変革と職場の理解

ワーケーション導入による企業側のメリットの1つは、社員の自律性、多様性を尊重することで、これから社会で活躍できる人材の確保・定着につながると考えられます。また近年の地方創生やSDGsを推進する流れから、仕事のなかで地方の人や異業種の人とのコミュニケーションが必要な場面が増えてきました。会社以外の人たちと話す越境学習の機会としても、縦横斜めの関係性を構築したり、いろいろなコミュニティと触れ合うことで、多くの気づきを得てネットワークも広がります。

山梨大学とクロス・マーケティング社が共同で行った調査（※1）では、ワーケーション実施者は、非実施者よりも社交性や学習意欲が高いという結果が出ています。ワーケーションを実施する社員には、休暇と仕事が混ざり合った環境の中で、休暇を楽しみつつ成果も上げるといった自律的な考え方が必要です。いま、VUCA（※2）の時代では、自ら課題を見つけたり、周りと協力して答えがないことを解決したりといった能力が必要とされています。ワーケーション実施者には、VUCA時代に活躍できる人材と重なる部分があるといえるでしょう。

では、全ての社員がワーケーションを実施するべきなのかというと、そうではありません。オランダで行われた調査結果では、休暇と仕事が混ざり合うような環境で、全くストレスを感じない人は3割程度です。特に、日本ではこれまで仕事とプライベートをしっかりと区別する働き方が推奨されてきたこともあり、ワーケーションに罪悪感を持つような方もいます。そのため、ワーケーション導入のポイントは、会社全体が「フレックスプレイス（※3）」なる考え方を推奨し、ハイブリッドワークを推進することだと考えます。仕事をする場所は、リゾート地でも実家でも、もちろん会社でもどこでも問題ない、という雰囲気を社内に定着させて、社員それぞれが自身の働き方を最適化できることが重要です。このような取り組みは、例えば、育児や介護などで能力を活かしきれていなかった人が、活躍できる場をつくることにも繋がります。

日本では、コロナ禍のGo To トラベル事業とともにワーケーションの概念が広まったため、観光振興や地方創生の面から、ワーケーションのメリットが強調されがちです。ワーケーションが、社員の働き方を最適化することのアイコンとして企業に定着し、“work from any where,any community”が当たり前になる社会となることを望んでいます。

※1 「ワーケーションに関する調査（令和3年3月）」

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2021/04/20210506pr.pdf>

※2 VUCA：V（Volatility：変動性）U（Uncertainty：不確実性）C（Complexity：複雑

性) A (Ambiguity : 曖昧性) の頭文字をとった造語。不確実な経済・社会情勢を指す。

※3 フレックス・タイム制度にならって、時間の代わりに就業場所に柔軟性を持たせる制度のこと。

■□■ 2. 最新情報 ■□■

《お知らせ》

【内閣府】

● 「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」地域シンポジウム@石川県

「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」では、地域において女性活躍推進に積極的に取り組む男性リーダーのネットワークを拡げることがを目的に、石川県と共催でシンポジウムを開催します。冒頭、石川県知事の馳 浩氏から挨拶の後、以下のプログラムを予定しております。申込締切は10月4日(火)となっておりますが、定員に達し次第締切と致します。ご興味のある方はぜひお早めにお申し込みください。

<開催日時>

令和4年10月18日(火) 15:30~17:00

<形式>

ハイブリッド開催 (石川県立音楽堂交流ホール およびオンライン配信の併用)

※石川県外の方は原則オンラインでの参加をお願いしております。

<プログラム>

○基調講演 「男性リーダーによる女性活躍推進への想いと取組」

勝木 敦志 氏 (アサヒグループホールディングス株式会社 代表取締役社長 兼 CEO)

○パネルディスカッション 「女性活躍推進における組織トップの役割」

(パネラー登壇予定者)

杖村 修司 氏 (株式会社北國フィナンシャルホールディングス 代表取締役社長)

塚本 健太 氏 (コマニー株式会社 代表取締役社長執行役員)

黒川 正枝 氏 (株式会社小林製作所 業務改革最高責任者 (Coo))

(モデレーター)

石川県副知事 西垣 淳子 氏

その他、詳細については下記のリンク先をご確認ください。

◆シンポジウムの詳細はこちら

https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders/event/index_20221018.html

◆シンポジウムへの参加申込はこちら

<https://forms.gle/CCqQ68wevSfEgY1t9>

◆「男性リーダーの会」への参加はこちら

https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/male_leaders/join.html

【厚生労働省】

●自営型テレワーク活用セミナー（オンライン）

→自営型テレワーク活用セミナーを10月27日（木）にオンラインで開催します。

自営型テレワークを活用する発注者および仲介事業者と自営型テレワーカーが、トラブルを未然に防止し円滑に業務を進めることを目的としたセミナーです。ぜひご活用ください。

詳細、申込はWEBサイトにて

○自営型テレワーカー向けセミナー

https://homeworkers.mhlw.go.jp/seminar/2022_w.html

○発注者・注文者等企業向けセミナー

https://homeworkers.mhlw.go.jp/seminar/2022_c.html

（自営型テレワークに関する総合支援サイト）

《地方公共団体等の動き》

（各事業の詳細はそれぞれの地方公共団体にお問い合わせください。）

【栃木県】

男性のワーク・ライフ・バランス講座

男性の暮らし方・意識の改革は、女性の活躍を推進するためにはとても重要なことです。男性の家庭・社会への積極的参加によって生じる男性自身・社会・女性にとってのメリット等を学び、暮らし方を見直すきっかけにしませんか？

日時：令和4年12月3日（土）13：30～15：30

会場：Zoomを使用したオンライン講座

対象：どなたでも ※女性も参加いただけます。

定員：80名（先着順）

参加費：無料 ※ただし、講座聴講の通信料は受講者の御負担となります。

申込締切：令和4年11月23日（水・祝）

申込方法：申込フォームにて

https://www.parti.jp/kouza/index_kou03-1.html

【東京都】港区

港区立男女平等参画センター 2023年度 助成事業 説明会参加申込み

私たちの暮らす地域、社会には、改善や解決していきたいと感じる悩みや課題があります。港区立男女平等参画センター（愛称：リーブラ）では、「全ての人が性別等にとらわれず、自分らしく豊かに生きる」ことのできる社会づくりのための企画に助成金を交付し、活動の支援を行っています。皆さんの思いや、アイデアを形にするチャンスとなるこの事業を活用して、男女平等参画の活動を行ってみませんか。

日時・場所：※説明内容は2回とも同じです。

第1回 令和4年9月25日（日）14：00～16：00 港区立男女平等参画センターリーブラ学習室C

第2回 令和4年10月2日（日）14：00～16：00 オンライン（Zoom）

申込みに当たり、事前に本事業の実施目的や採用者への支援内容などの詳細説明、及び質疑応答を行いますので、いずれかの回に必ず御参加ください。※説明会への出席が難しい場合には、リーブラ事務局へお問合せください。

定員：各回20名（申込順）

申込方法：申込フォーム、電話又はFAXにて

※10月2日（オンライン開催）の回に御参加の場合は、なるべく申込フォームからお申込みをお願いいたします。

https://www.minatolibra.jp/calendar/?mc_id=549

【東京都】大田区

2022年度エセナフォーラム講演会「犬山さんちに聞いた これからの新しい家族のカタチ」

日時：令和4年10月15日（土）14：00～16：00

会場：エセナおおた、オンライン（Zoom ウェビナー）同時開催

対象：大田区在住、在勤、在学の方

定員：エセナおおた 80名、オンライン 50名（各先着順）

参加費：無料

申込締切：令和4年10月3日（月）必着

<https://escenaota.jp/event/5489/>

【富山県】

働く女子のキャリアデザイン応援講座

キャリアアップへの意欲を失いやすい若手女性社員を対象に、将来のキャリアへの不安の解消と、自分の可能性を探るための講座です。

日時：第1回 令和4年10月5日（水）13：00～17：00

テーマ 「自分らしい」が最強で最高！～夢をかなえる仕組みを知る DCT ワーク～

第2回 令和4年10月21日（金）13：30～16：30

テーマ 社会人のための言葉の言い換えレッスン ～その一言を好かれるセリフに～

会場：富山県民共生センター「サンフォルテ」

定員：各回 女性 30 名程度 ※先着順

対象：おおむね入社 5 年以内の女性社員

費用：無料

申込方法：申込フォーム又は申込用紙をダウンロードして FAX にて申込み

<https://www.sunforte.or.jp/event/svEveDtl.aspx?servno=1183>

【山梨県】

夢、叶える“あなたらしい起業”～あなたの想いを仕事にする～

起業を目指す女性を対象に、起業に必要なノウハウを学ぶ講座を開催します。又、3 回の座学終了後に、希望する方には実践編として「ぴゅあ富士フェスティバル 2022」でのブース出店の場を御提供します。もちろん、座学のみ受講も大歓迎です。起業のための一歩を踏み出してみませんか？

日時：令和 4 年 9 月 30 日、10 月 18 日、10 月 28 日 各 10：00～11：30

場所・定員：

(1) ぴゅあ富士 本会場 小研修室 各回 10 名

※実践編への参加希望の方は、申込み時にその旨をお知らせください。

※フェスティバルへの出店はせず受講のみの方も可

(2) ぴゅあ峡南 交流室 各回 12 名

(3) オンライン受講 各回 20 名

対象：起業を目指す方 ※既に起業している方も可

受講料：無料

申込方法：電話、FAX 又はメールにて

https://www.pref.yamanashi.jp/challenge/calender_detail.php?id=3601

【愛知県】

女性のための起業相談

「何かを始めたい」「でも、どうすればいいかわからない」という女性の皆様、是非御相談ください。起業や NPO 活動、地域活動を始めたいという方々に、実績豊富な女性の相談員が一步踏み出すために必要なことを御一緒に考えていきます。

日時：毎月 1 回（第 3 水曜日） (1) 13：00～13：45 (2) 14：00～14：45 (3) 15：00～15：45 (4) 16：00～16：45

場所：ウィルあいち 2 階 スタディールーム

定員：1 日 4 名（先着順／定員になり次第締切）

相談料：1 回 1,000 円

申込方法：申込フォーム、メール又は FAX にて

<https://www.aichi-dks.or.jp/event-kigyous2022.html>

【滋賀県】彦根市

令和4年度 女性のための「チャレンジ相談」

男女共同参画社会の形成を目指し、一歩踏み出す女性の応援や様々な相談に対応するため、中小企業庁滋賀県よろず支援拠点と協働し、女性のための「チャレンジ相談」を開催します。

日時：毎月1回（指定の月曜日） （1）11：00～12：00 （2）13：00～14：00 （3）14：15～15：15

場所：彦根市男女共同参画センター「ウィズ」 講習室

対象者：市内に在住・在勤・在学の女性

相談料：無料（予約制）

申込方法：電話、FAX 又はメールにて、相談希望日の10日前までに申込み

https://www.city.hikone.lg.jp/kakuka/kikakushinko/3/6/3/1_1/18826.html

【大阪府】

第5回男女いきいき事業者表彰受賞事業者によるセミナー開催！

大阪府では、男女がいきいきと働ける職場づくりに取り組む事業者を応援しています。

女性活躍推進について、他の事業者の模範となる受賞事業者を決定し、表彰式を行いました。

また、「ドーン de キラリ 2days 2022」内の女性活躍推進セミナーにて、受賞事業者による事例発表を行います。ぜひご参加ください！

■受賞事業者

【大賞】株式会社関西みらい銀行

【優秀賞】株式会社カスタマーリレーションテレマーケティング

株式会社ダイアナ

公益財団法人太平洋人材交流センター

■受賞事業者による事例発表

日時：令和4年9月16日（金）14時から15時40分 場所：ドーンセンター

登壇事業者：株式会社関西みらい銀行、株式会社ダイアナ

基調講演：講師 大崎麻子氏（NPO法人 Gender Action Platform 理事）

詳細：<https://www.pref.osaka.lg.jp/danjo/osaka-jyokatsu-kaigi/sympo.html>

■男女いきいき事業者表彰の詳細、表彰受賞のポイントはこちらから

<https://www.pref.osaka.lg.jp/danjo/ikiiki2013/award2022.html>

■「ドーン de キラリ 2days 2022」の詳細はこちら

<https://www.pref.osaka.lg.jp/danjo/osaka-jyokatsu-kaigi/fes.html>

【山口県】

高校生・大学生等を対象とした男性の家事・育児参画に関する啓発動画コンテスト

県では、男女が対等なパートナーとして、個性と能力を発揮することのできる男女共同参画社会の実現を目指して、社会の幅広い分野にわたる様々な施策の推進に取り組んでいます。この取組の一環として、男女がともに仕事と家庭の責任を分かち合える社会を目指して、男性の家庭への参画を促進するため、次代を担う高校生・大学生等を対象とした啓発動画コンテストを実施します。

募集作品：

- ・1分以内の動画
- ・男性が家事・育児に参画することのメリットや、男性が家事・育児に積極的に取り組んでみようと思える内容のもの。
- ・作品の応募点数に制限はありません。ただし、入賞する作品は1名（1グループ）につき1作品までとします。

応募資格：

- ・応募時に県内に居住又は県内の高等学校等、高等専門学校、専門学校、専修学校、短期大学、大学に在籍している生徒及び学生
 - ・応募時に県内に居住又は県内の事業所等に通勤している25歳以下の方
- ※個人、グループ（全員が上記いずれかに該当すること）、性別は問いません。

応募方法：応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、郵送又はメールにて応募

応募締切：令和4年10月31日（月）まで

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/37/156545.html>

【徳島県】

男性に向けた心の元気UP！講座

頑張り過ぎていませんか？今日から使えるストレスマネジメントの知識とスキルを学びます。

日時：令和4年10月2日（日）13：30～15：30

場所：ときわプラザ学習室（アスティとくしま2階）

対象：男性

受講料：無料

定員：20名程度

申込方法：電話、FAX又はメールにて

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/flair/event/campus/7207992/>

【佐賀県】

読書時間のプレゼント

佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター（アバンセ）では、子育てで忙しい保護者の皆さんにアバンセ 1 階の「情報サービスフロア」で読書や情報探しの時間をプレゼントします。この機会に是非、自分だけの時間をお過ごしください。

日時：毎月 1 回（第 2 水曜日）10：00～12：00

場所：アバンセ 1 階情報サービスフロア（保育 2 階幼児室）

対象：1 歳から就学前までのお子様をお持ちの方（父母、祖父母など）

一時保育定員：先着 5 名程度（要予約）

一時保育料：無料

申込方法：電話又は来館

https://www.avance.or.jp/index/_1153/_5052.html

【編集後記】

働く時間や場所を柔軟かつ有効に活用できる働き方であるテレワークですが、勤務先以外の働く場所の選択肢としては、まだまだ自宅が主流です。ワーケーションが普及すれば、働く場所を自宅だけに縛られず、より柔軟に選択できるようになります。地理的・時間的な条件に関わらずあらゆる地域で同じような働き方が可能となれば、転職することなく自らが望む地域へ移住することも可能になります。

ワーク・ライフ・バランスの実現のためには多様な働き方を進める必要がありますが、その多様さはますます広がりを見せています。

本メールは送信専用メールアドレスから配信されております。

このまま御返信いただいてもお答えできませんので御了承ください。

配信中止はこちらから

<https://nmg.cao.go.jp/cao007/unsubscribe.php>

配信先変更は上記により配信中止の後、こちらから新しいアドレスで登録

<https://nmg.cao.go.jp/cao007/subscribe.php>

バックナンバーはこちらから

<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/backnumber/index.html>

このメールマガジンへの御意見・御要望はこちらから

<https://form.cao.go.jp/gender/opinion-0086.html>

内閣府「仕事と生活の調和」推進サイトはこちらから

<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>